

## 第60回Kozoom28 「街の景観(2題)に思う」

清水健二

### (1)住まいの景観

3年半に及んだ コロナ禍が収まって以降、街を歩いていて急速に住まいの景色が変わってきたように思う。少子、高齢化が進み2022年の出生数が80万人を下回ったと報じられた。ところが先日2024年には更に70万人を割り過去最小を記録し、女性の出生率も1.15になったという。都道府県別のデータで、東京都は0.96で最下位になっている。子どもの出産、養育への経済的な不安や、仕事と子育ての両立の困難さ、また個々人の結婚や出産への意識観の違い等が複雑に絡み合ってきているという。一方高齢化が進んできているものの、年寄の死亡率は高く160万人を超えている。したがって日本の人口は減少に歯止めがかからない状態になってきている。国の政策に地方創生を掲げながらも容易でなく、若者達が都市へ流れ続き地方は過疎化に向かっている。地方での雇用や、インフラ整備、住宅建設が進まない所では止めようがなさそうである。核家族化現象により高齢者は古い家に留まり、2人住まいから1人住まいへ、そしてやがて亡くなって空き家になってしまう。全国レベルでは現在空き家は約900万戸あり、14%にも達しているというから驚く。特に戦前に多かった長屋や戦後のハーモニカ長屋と言われた文化住宅の空き家は、犯罪の温床や倒壊、火災の要因になりやすく、何より地域の景観を損ねてきている。

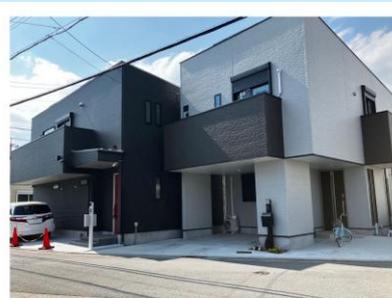


懐かしい長屋風景 (八尾市)

私の住まいは古くからの住宅地で、周辺に空き家が多くなってきている。幸い商業地は隣り合わせで、日常生活は便利で最寄りに駅もあることから、空き家になっても割合早く建て替えられてきている。新しい家が建ち、馴染んできた街の佇まいや風情は消えつつあって、わずかの期間に驚く程周辺の景観が変わり落ち着いた感じがしている。



最近の戸建住宅 (八尾市)



最近の戸建住宅 (八尾市)

この2~3年の間に、昔からの日本家屋の建て替えが急に進んで、新建ちの住居のデザインが、あまりにもシンプルで箱型構造が多く、窓等小さく開放部が少ないので、耐震性は良いがどこか窮屈な感じがする。しかも外装は

白か黒で飾り気がない。今の流行りなのかと思うが無味乾燥で趣がない。経済性と利便性ばかりが強調されていて殺風景である。ところがそれらの家に特徴があって、異なる名字の表札が掲げられるところが多い。親と子の2世帯用住居になっていて、高齢の親と子ども、孫たちが一緒に生活できる間取りになっている。新しい生活づくりに転じ始めてきたようでその意味で心温まる思いをしている。

## (2) 街づくりの景観



シャッターに描かれた絵（八尾市）



商店街の壁画（八尾市）



落書き風の絵（八尾市）



落書き風の絵（八尾市）

近年、昔からの商店街は大手スーパーの進出で寂れ、シャッター一街になってきた。店主達は人寄せに様々な行事を催したり、店に華やかな飾り物を取り付けたり、絵を描いたり工夫しているが、あまり効果はなさそうである。



北加賀屋.名村造船工場の壁画

私も関心があるが今少し楽しめないでいる。自治体も街全体を活性化へ向け、街の特徴を出そう

とあれこれ美観に努め、公園整備を図ったり、芸術家の知恵を求めて街づくりに励んでいるようである。もう10年も前には街のあちこちにスプレーで下手な落書きをよく見たものだった。やがてウォール・アート(壁画)が出現し少しは街歩きも楽しくなってきた。大阪市住之江区に北加賀屋町があり、写真好きな人達は街の各所にあるウォール・アートを探しながら散策を楽しんでカメラに収めている。私も何回か足を運んできたが、静かな街中で絵を楽しめる潤いの街である。



北加賀屋の壁画（2）



北加賀屋の壁画（3）

石川県七尾市の佐々波漁港の防波堤に、世界の名画が描かれているというので10年程前に訪ねたことがある。地元の金沢美大の学生が名画の模写と地域的美観を目的に描き、「名画のある漁港」として環境づくりに寄与したというから、地域や漁港で働く人達、そして行政の力によって、文化的価値を創生したと言えよう。

2011年に発生した東日本大震災で壊滅した地域の復興に、



佐々波の壁画（1）



佐々波の壁画（2）

海岸線は巨大な防潮堤が建設されたが、自然の景観が失われ殺風景になったため、多くのアー



## 宮城・雄勝町の防潮堤壁画

テイストの協力でこの防潮堤に絵を描いて、「海岸線の美術館」と称して人々の心を癒やす役目を果たすようになっている。私も一度は訪ねて見たいと思っているが果たせるかどうかである。

大都市の雑踏の中で味わえない、静かで豊かな心呼び起こし、四季を通して自然と対話できる場所づくりこそ、地方都市の進むべき方向ではないだろうかと思っている。

大阪に在住する私にとって、どこより素晴らしい景観の街は御堂筋の「彫刻ストリート」だろうと思っている。1992年に御堂筋をアメニティ豊かな道路にしようと世界的に一流の過去、現在の彫刻家の作品を設置した。その数は29体だが淀屋橋から心齋橋までがメインで、他に堂島川沿いにもあって、現代彫刻家の作品が並んでいる。これらの彫刻は前後左右から鑑賞できるからその迫力に感動させられ、私はどれだけ通い勉強になったかもしれないと思っている。ロダン、ブールデル、高村光太郎、佐藤忠良、中村晋也等々のアーティスト達の作品に作家の指の跡にも触れることができるのである。



ロダン（イヴ）



高村光太郎（みちのく）



河合隆三（日溜り）

街の景観は時代と共に変化していくものだと認識しているものの、日本人はスクラップ&ビルドを平気でやる民族とも言われている。保存をベースに修復・活用を通じ文化遺産として後世に残していけるよう心がけたいものである。50年程前、私が仕事の関係で初めてヨーロッパを訪ね、街並みの美しさに魅了された。家の中は現代風な設備に改造されているが、建物の外観は改装できない規制があり、古色騒然としているもののその佇まいの景観は素晴らしいもので強いカルチャー・ショックを受けたことが思い出される。

日本でも奈良の飛鳥は歴史的風土保存地区として、また京都の町家や長崎の洋館等の保存などの成功している事例等を見習って、積極的な地方創生に観光と、環境保全に努めて欲しいものだと願っている。

令和7年6月 記